エイズ・結核・マラリアの
ない未来に向けて
日本の力を

FGFJレポート
December 2017 No.14
グローバルファンド日本委員会
Friends of the Global Fund, Japan
Joining the Fight Against AIDS, Tuberculosis and Malaria

グローバルファンド@ジュネーブから

「人類が直面する最も深刻な危機の一つ」に挑むグローバルファンド新事務局長に元銀行家、ピーター・サンズ氏

次期世界エイズ・結核マラリア対策基金（グローバルファンド）の事務局長に元スタンダード・チャータード銀行最高経営責任者（CEO）のピーター・サンズ氏が選出されました。グローバルファンド理事会は11月14日、財務・金融分野における豊富な経験と組織変革の遂行能力を評価し、4人の最終候補者の中からサンズ氏を選任しました。

選任の知らせを受けたサンズ氏は「この特別なパートナーシップの一員となることを光栄に思います」と述べるとともに、新事務局長としての抱負を次のように語っています。

「感染症は今日、人類が直面する最も深刻な危機の一つです。私たちが協力して資金を調達し、強靭な保健システムを構築し、地域において有効な対応を策定すれば、三大感染症の流行に終止符を打ち、繁栄を促進し、グローバルな健康安全保障を強化できます」

サンズ氏は2018年3月に就任、リチャード・フィーチャム氏、ミシェル・カザツキン氏、マーク・ダイブル氏に次いで4代目の事務局長となります。

事務局長の選出プロセス

グローバルファンドの事務局長選任プロセスは昨年秋から理事会で進められていましたが、候補者が絞り切れず、今年春にはプロセスを最初からやり直すことを発表しています。このため、ダイブル前事務局長が任期満了で5月末に退任した後は、官房長であったマライケ・ヴェインロクス氏が事務局長代行を務めています。

新たなプロセスのもとで事務局長選出委員会（EDNC）が立ち上がり、6月初旬から公募を開始しました。109名の応募者がEDNCによる予備選考を経て絞り込まれ、10月に4人の最終候補者が発表されました。発表後、それぞれの候補者は理事会に対しプレゼンテーションをし、理事会によるインタビューが行われました。11月14日の理事会にて多数決投票でサンズ氏が選ばれました。

■歴代事務局長

氏 名	在任期間
リチャード・フィーチャム Richard G.A. Feachem	2002年7月から2007年3月
ミッシェル・カザツキン Michel Kazatchkine	2007年4月から2012年1月
ガブリエル・ハラミヨ（事務局統括代表） Gabriel Jaramillo（General Manager）	2012年2月から2012年12月
マーク・ダイブル Mark R. Dybul	2013年1月から2017年5月
マライケ・ヴェインロクス（事務局長代行） Marijke Wijnroks （Interim Executive Director）	2017年6月から2018年2月

次期事務局長へ高まる期待

グローバルファンドのアイダ・クルトビッチ理事長はサンズ氏について「たぐいまれな組織管理と財務の経験、そして国際保健に取り組むハートがあります」と語っています。

また、「複雑な課題に直面する時期に、資金運営と根本的な組織の変革を進める彼の能力はまさしく私たちが必要としているものです」と選出の理由を述べ、

「彼がグローバルファンドを次のレベルに押し上げてくれるものと信じています」

と強い期待を表明しました。

サンズ氏は次期事務局長として、HIV、結核、マラリア対策の成果の最大化をはかるとともに、各国が強靭で持続可能な保健システムを構築できるよう支援していくためのグローバルファンド戦略2017～22を統括することになります。

ピーター・サンズ氏（Peter Sands）
グローバルファンド次期事務局長

英国外務省、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、2002年にスタンダード・チャータード銀行グループの最高財務責任者に就任。2006～15年には同行の最高経営責任者として、事業や利益を拡大し、政府援助を受けずに欧州経済危機を回避したことで高い評価を受けている。また、保健に重点を置くCSRプログラムを統括し、寄付やロジスティック支援を通しHIV/エイズ、マラリア対策などに貢献。
スタンダード・チャータード銀行を退任後、金融業界での経験を生かしてグローバルヘルス分野に身を投じ、米国医学アカデミーのグローバルヘルス・リスクフレームワークに関する委員会の委員長を務めた。また、世界銀行のパンデミックに備えるファイナンスに関する国際ワーキング・グループの議長を務めるとともに、ハーバード・グローバルヘルス研究所およびハーバード大学ケネディ・スクールのモサヴァー・ラーマニ・センター・フォー・ビジネス・アンド・ガバメントのリサーチフェローとして、グローバルヘルスと金融規制に関する研究プロジェクトにも従事。関連論文多数。オックスフォード大学卒業、ハーバード大学大学院公共経営学修了。

15年間で2200万人 グローバルファンド

グローバルファンドの2017年成果報告書(Results Report 2017）が9月13日、スイスのジュネーブで発表されました。2002年の創設以来2016年末までの15年間にグローバルファンドが支援する各国のプログラムで、計2200万人の生命が救われたと報告書は推計しています。

報告書のエグゼクティブ・サマリーは「エイズも、結核も、マラリアも、2000年当時は流行を終息させることなどとてもできないと思われていた」と20世紀末時点の世界の様子を振り返っています。エイズ、結核、マラリアという三大感染症の流行の終息は望めないまでも、何とか拡大を食い止め、治療を提供して、人びとの命を救わなければならない。それは21世紀を迎える世界が緊急に対応すべき危機であり、最重要の安全保障課題でもありました。

グローバルファンドの2017年成果報告書（Results Report 2017）

グローバルファンドはそこから1年

の命を救う
2017年成果報告書

あまりの準備期間を経てスタートし、各国政府、国際機関、企業、研究者、シビル・ソサエティ、当事者コミュニティと協働し、多くの命を救ってきました。抗レトロウィルス治療を受けているHIV感染者や新たに発見され治療を受けた結核患者の数、マラリア感染予防のために配布された殺虫剤処理蚊帳の数は過去15年間で飛躍的に増え、その成果を支えてきました。

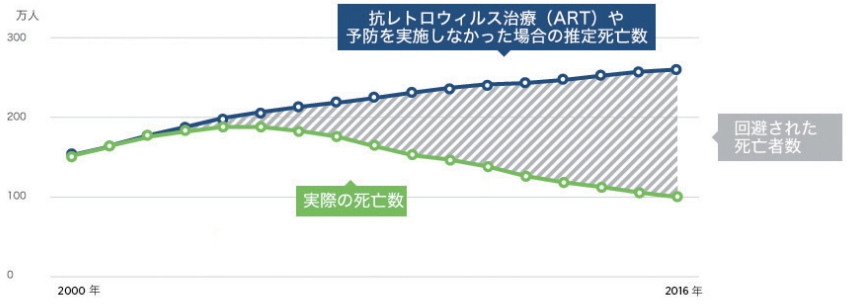
報告書はまた、グローバルファンドが投資を行っている国々ではエイズ、結核、マラリアによる死者数が3分の1も減っていることを明らかにしています。いま抗レトロウィルス治療を受けているHIV感染者は世界全体で2090万人と推計されていますが、その半分以上の1100万人はグローバルファンドの支援を通じて治療を受けています。

11 MILLION
1100万人が
抗レトロウイルス剤で
HIV治療を受けています

17.4 MILLION
1740万人が
結核の治療を受けました

795 MILLION
7億9500万張の蚊帳が
マラリア予防のため
配布されました

図3 グローバルファンドが支援する国々におけるエイズによる死亡数の変化（2000-16年）



2016年末までに3つの感染症で1億4000万～1億8000万の感染を防ぐというグローバルファンドのターゲットは、1年前倒しして2015年に達成されています。

高い投資効果

グローバルファンドは直接、現場でプログラムを実施する組織ではありません。実際の感染症対策は、三大感染症の流行に大きな影響を受けている国や地域で、それぞれの政府や援助機関、地元の専門家や当事者コミュニティが中心になって疾病対策の優先事項を決めて、実施しています。それではグローバルファンドは何をするのでしょうか。

グローバルファンドは政府、国際機関、企業、シビル・ソサエティ、研究者、感染者の当事者などが協働するメカニズムとして、世界から資金を調達し、三大感染症の流行終結に向けて対策事業を戦略的に支援しています。2017年10月までに、国際社会から約412億ドルを集めました。現在100以上の国・地域が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援、保健システムやコミュニティシステムの強化に、年間約30～40億ドルの資金を供与しています。

報告書の発表に際し、グローバルファンドのマライケ・ウェインロクス事務局長代行は「グローバルヘルスへの投資は、より安全で安定した世界を実現し、世界中のコミュニティを感染症から守り、健康への新たな脅威の出現を抑えるうえで、極めて費用対効果が高い方法です」と強調しています。

数字で見るグローバルファンドの成果

・2004年のエイズによる死者は190万人でしたが、2016年には100万人と48%減少しています。（図3参照）

・結核の死亡率は35%下がり、2015年の（HIV陽性者を除く）死者数は2000年より21%減っています。（図4参照）

・世界のマラリアの死者数は2000年から15年の間に50%減り（図5参照）、グローバルファンドが支援するプログラムで治療を受けた人は過去1年で15%増えて2016年末現在の累積で6億6800万人に達しています。

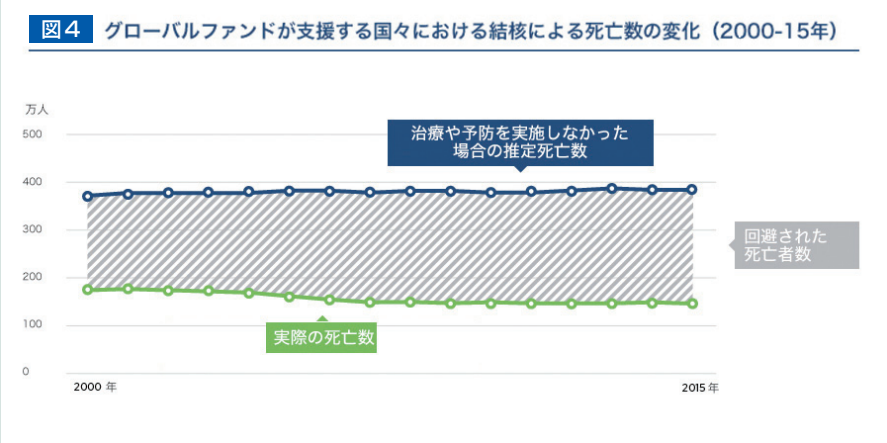


図4　グローバルファンドが支援する国々における結核による死亡数の変化（2000-15年）

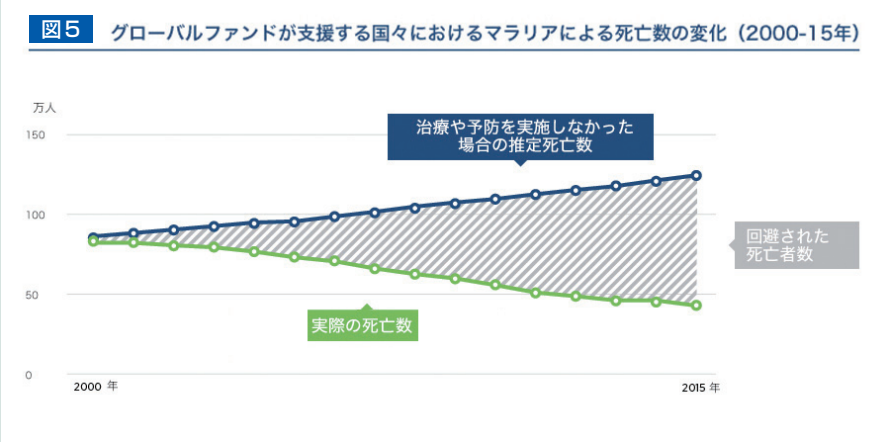


図5　グローバルファンドが支援する国々におけるマラリアによる死亡数の変化（2000-15年）

3分の1は保健システム強化へ

報告書はこれまでの成果とともに、「これからなすべきことがいかに多いか」も強調しています。

グローバルファンドの支援総額の 1/3 以上は現在、強靭で持続可能な保健システムを構築するための支援にあてられています。保健医療へのアクセスやサービス質の向上、保健従事者の育成、情報管理などの改善を含む保健システムの強化は、HIV、結核、マラリアの流行を終息させるために極めて重要であり、同時に未知の健康課題が新たに発生した際の各国の対応能力を高めることにもなります。

世界の三大感染症の流行拡大という緊急事態に対応して創設されたグローバルファンドは15年の経験を蓄積し、大きな成果をあげてきました。しかし、3つの感染症の流行はまだ終わったわけではありません。流行を終結に導き、より健康で豊かな社会を築くという目標を実現するには、それぞれの国で個別の疾病対策を支える強靭な保健基盤を整備し、援助から自立への移行を進めるなど、新たな課題に果敢に踏み込ことがますます重要になります。

◎成果報告書のエグゼクティブ・サマリーはPDFで日本語版をダウンロードすることができます。
https://www.theglobalfund.org/media/6775/corporate_2017resultsreport_summary_jp.pdf

公益財団法人 日本国際交流センター（JCIE）
日本国際交流センターは、民間レベルでの政策対話と国際協力を推進する公益財団法人。民間外交のパイオニアとして、1970年の設立以来、非政府・非営利の立場からグローバルな知的交流事業を実施しています。東京とニューヨークを拠点に、外交・安全保障、グローバルヘルス（国際保健）、ダイバーシティ、グローバル化と外国人財などの多角的なテーマに取り組んでいます。

グローバルファンド日本委員会は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）を支援する日本の民間イニシアティブです。グローバルファンドに対する理解を促進するとともに、感染症分野における日本の役割を喚起し、政策対話や共同研究、国際シンポジウム、視察プログラムなどを実施しています。（公財）日本国際交流センターのプログラムとして運営されています。

FGFJレポート
2017年12月　No.14
編集・発行：
公益財団法人 日本国際交流センター（JCIE）
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目1番12号
明産溜池ビル7F
Tel: 03-6277-7811（代表）
Fax: 03-6277-6712
Mail: fgfj@jcie.or.jp
http://fgfj.jcie.or.jp

Copyright　©日本国際交流センター　無断転載禁止